

**【創育クリエートメールマガジン vol.3】** [東ロボくんが教えてくれたこと]

2018.2.14 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

さて、第2回「グローバル人材の育成」はいかがでしたでしょうか。

第3回を御愛読いただければ幸いです。

\*\*\*\*\*

=東ロボくんが教えてくれたこと=

「東ロボくん」をご存知でしょうか。東ロボは、国立情報学研究所が中心となって2011年から2016年にかけて行った人工知能（AI）開発プロジェクトの略称です。プロジェクトのテーマはずばり「ロボットは東大に入れるか」。東ロボくんは、2016年にはGMARCHクラスに合格可能なレベルに達しました。しかし、ビッグデータと深層学習に基づく現在のAIは、文章の意味を理解することはできない、つまり読解力の不足により、国語・英語などで成績の伸びに限界があり

ました。こうした限界が見えたことで、東ロボくんのプロジェクトは終了しました。

プロジェクトリーダーであった新井紀子教授は、このプロジェクトの過程で1つの疑問を持ちます。「読解力を持たない東ロボくんより国語の問題が解けない子どもたちがいる。人間の子どもたちは、東ロボくん以上に文章を読解できていないのではないか」と。この仮説を検証すべく、新井教授が中心となり、国立情報科学研究所は、子どもたちが教科書に書かれているようなシンプルな文書をどれくらい正確に読むことができるかを科学的に診断する「リーディングスキルテスト」を開発。昨年7月末までに中高生を中心に約2万5千人を対象に実施しました。このテストで、中学生の約4割が教科書から引用された文章の意味を理解していませんでした。また、この調査結果により、中学生の約15%が、主語と述語といったごく基本的な文章構造の把握ができないまま中学を卒業していることもわかりました。

子どもたちの読解力不足については、私立中学受験においても指摘されています。昨年の受験シーズン終了後、森上教育研究所に寄せられた各校の入試レポートの中で、複数の学校の先生が「問題文が読めていない」とのコメントを記されています。算数や社会にで、問題文が読解できないためと思われる誤答が見られたというのです。

読解力がついていないということは、子供たちの将来にとって深刻な影響を与えます。資格試験に合格できない、仕事についても手順書を理解できない、などはその一例でしょう。

今後、AI が進化し産業構造が大きく変化し、それによって仕事自体が急激に変わっていくことが予想されています。「AI に仕事を奪われる」とさえ言われています。そうした時代を生き抜いていくには、常に変化に対応して自分自身をアップデートしていくことが求められます。そのためには、目の前にある情報を読み解き、そこから課題を発見することや、自立的に学び続けることが重要になってきます。

これらの基礎として読解力は不可欠な要素となります。

子どもたちの読解力不足は、東ロボくんの研究・開発によって見つかった問題でした。初等・中等教育において読解力をいかに身につけさせるか。東ロボくんが教えてくれたことは、学校教育においての重要な課題となっています。

(執筆：森上教育研究所アソシエイツ 高橋 真実)

\*\*\*\*\*

いかがでしたでしょうか？

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信できるよう努めて参りたいと思います。

なお、本メールマガジンですが、内容等についてのご意見、アドレス変更、配信停止については末尾の E-mail アドレスよりご連絡をお願いいたします。

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋 3-24-3

T E L . 03-5472-5772

[create@soiku-c.co.jp](mailto:create@soiku-c.co.jp)